

北海道におけるツバメコノシロ科の初記録

First record of the genus Polynemidae family in Hokkaido, northern Japan

杉目良平・笹森健太・渋谷祐和 (株式会社エコテック)

ツバメコノシロ科 Polynemidae は、世界中の熱帯から温帯の海域に分布し、これまでに 8 属 43 種が記録されている。日本沿岸における記録はツバメコノシロ *Polydactylus plebeius* (Broussonet, 1782)、カタグロアゴナシ *Polydactylus sextarius* (Bloch and Schneider, 1801)、ナンヨウアゴナシ *Polydactylus sexfilis* (Valenciennes in Cuvier and Valenciennes, 1831)、およびミナミコノシロ *Eleutheronema tetradactylum* (Jordan and Evermann, 1902) の 2 属 4 種である。これら 4 種を含め、ツバメコノシロ科の分布の北限は、我々の知る限り、1999 年にミナミコノシロ (標準体長 739 mm) が捕獲された青森県 深浦町 (吾妻川河口沖) である。この記録における捕獲個体は中国大陸沿岸から偶発的に来遊したと考えられている。

我々は 2023 年 8 月 23 日に北海道 中南部 噴火湾内に位置する気門別川 (伊達市) の河口域においてツバメコノシロ科 Polynemidae の 1 種を 1 個体 (標準体長 67 mm) 生存している状態で捕獲した。北海道においてツバメコノシロ科が記録されたのは初めてである。なお、今回捕獲されたツバメコノシロ科はこの 1 個体のみであったことから、気門別川に個体群として定着しているのではなく、個体が偶発的に来遊した可能性が高い。

捕獲された個体は、眼が発達した脂脰に覆われ、吻は半透明の軟骨質で突出し、胸鰭の下方部は鰭膜の無い遊離軟条を有していた (ツバメコノシロ科の形態的特徴)。当個体の遊離軟条は 5 対だった。この特徴は、日本で記録されている 4 種のうち、ツバメコノシロの特徴 (遊離軟条が 5 対) と一致し、ミナミコノシロ (遊離軟条が 4 対)、ナンヨウアゴナシおよびカタグロアゴナシ (それぞれ遊離軟条が 6 対) の特徴とは一致しなかった。当個体は、現状ではツバメコノシロである可能性が高いといえるが、未だ筆者らは世界中に生息するツバメコノシロ科のすべての種の形態的特徴を把握し、それらとの比較検証を行っていない。したがって、今後はこれまで知られている全ての種 (今回比較した 4 種を除く 39 種) の形態的特徴を整理・比較し、当個体の種同定に至ることを展望とする。



北海道 気門別川 河口域で捕獲されたツバメコノシロ科の一種 (標準体長 67 mm)。